

第501号 7月号 2026.7.21

岐阜県

商店街だより



発行元：岐阜県商店街振興組合連合会 岐阜市藪田南 5-14-53 TEL：058-277-1107

飛騨高山のサマーフェスティバル第1弾 商店街を歩いて楽しむクイズラリー

◆主催：飛騨高山サマーフェスティバル推進協議会

高山市中心市街地の活性化を狙う恒例企画「飛騨高山サマーフェスティバルまちなか歩いてクイズラリー」が今年で17回目を迎え、約1,000人が参加しました。

当日は台風の影響も懸念されましたが、時折晴れ間も覗くちょっと蒸し暑い天気となり、朝から多くの人で賑わいました。

今回のイベントの責任者で、高山市商店街振興組合連合会の長尾副理事長にお話を伺いました。

■ まちなか歩いてクイズラリーの概要

「かつては芸人招致などイベントを行っていましたが、単発で終わってしまって、イベントがないと郊外に住む若い世代が街中に足を運びにくくなりました。街中の商店街は観光客が多く、駐車も面倒だと敬遠されがちです。そこで、あえて街中を歩いてもらい、店を見つけ直すきっかけ

をつくるのが狙いでスタートしました」。実際、中心部の小学校は各学年1クラス20人弱まで空洞化が進み、生活圏の郊外化が進んでいるようです。継続的な街歩きの導線づくりは、地域の課題に正面から向き合う取り組みともいえます。

「参加は地元市民が中心ですが、観光客の飛び入りもたまにあります。ルールはシンプルでわかりやすく、クイズを解いてゴールに戻れば誰もが引ける『ガラガラくじ』で参加賞のお菓子を受け取れます。大人には商店街の商品券の小額サービスもあります。さらに当たりが出れば花火セットなどが手に入り、特賞は各店舗提供の3,000円相当の品物になります。景品はその場で渡さず引換券方式にして、約2週間の間に『お店に取りに行く』という仕組みにして、2度目の来店を促すようにしています。1度歩いて、



▲受付に並んだ参加者の行列



▲商店街の各所に設けられたスタンプポイント

もう1度店に行ってもら。商店街に戻ってくる小さな循環を作る工夫です」。

街中を楽しく歩くだけでなく、商店街の良さを再発見してもらい、再度足を運んでもらうための仕掛けがこのイベントの肝といえます。



▲お待ちかねのくじ引き

■ イベントの課題

「始めた当初は手探りの部分も多く、かなりばたつきましたが、毎年反省会を実施し、翌年に向けて改善を繰り返し、今では運営もスムーズになりました。一方で、運営スタッフの確保は課題です」。店主が自ら店に立たざるを得ない店舗も多く、商店街加盟店からの人員が十分に出せないところもあるようです。そうした場合は、高齢者人材センターの協力を得ていますが、決まったスタッフに負担が偏ることもあります。また、商店街に市外からの新規出店が増えるなか、組

合加入の周知やルール整備も求められています。「商店街に入ってもらわないとお願いもできないので、代表者に“今日2名お願いします”と頼み、つぎはぎで体制を作っているのが実情です」。

多くの観光客で賑わう高山市でさえ、多くの商店街が抱える悩みはあるようです。

■ 「まちなか歩いてクイズラリー」の今後について

「まちなか歩いてクイズラリー」は飛騨高山サマーフェスティバルの第1弾イベントで、7月開催の仮装盆踊り大会「ちょけらまいか」や手筒花火など夏祭りの流れの中で位置づけられています。

派手な刷新よりも、地域の実態に合わせてこのイベントを続けていくことが今の方針だと長尾副理事長はお話されました。

「今はこのイベントをどう進化させるかについては考えていません。子どもたちの代が変わっても、繰り返し継続していくことを第一優先で考えています」。

「毎年約千人が街を歩く」可視化された回遊効果は、商店街にとって確かな支えになっています。

インバウンドに沸く街で、生活者が日常的に戻って来る導線をどう保つか。クイズの一問一答の先に、商店街と市民の関係をもう一度編み直す問いがあるのではないかと思います。

街歩きを通して大垣の魅力を体感してもらう まちなかスクエアガーデン

◆主催：大垣市商店街振興組合連合会

6月7日（日）に大垣市でまちなかスクエアガーデンが開催されました。

当日は生憎の雨模様で、屋外のイベントは全て中止となってしまいましたが、それでもアーケードの下には何店舗かの出店もあり、賑わいを見せていました。

イベントについて、実行委員長の西田さんに

お話を伺いました。

■ まちなかスクエアガーデンとは

『まちなかスクエアガーデン』は前身の『元氣ハツラツ市』を引き継ぐ形で、2022年から始めました。コロナ禍明け早々ということもあり、一箇所に集まる形から、エリアを広げて“街歩



▲実行委員長の西田さん

き”をコンセプトとして、商店街だけでなく、公園や市役所周辺まで広げて、街の魅力を体感してもらうイベントにしました」。

取材当日は雨だったため、公園でのイベントは中止となってしまいましたが、天気の良い日はキッチンカーなども複数出店して、多くの人で賑わうそうです。



▲当日出店していた大垣女子短期大学の皆さん

「イベントといえば集客が一つの目的になるのですが、このイベントはそれに加えて、街歩きをしてもらうことで、『歩いて楽しい街』であることを感じてもらうことを狙いとしています。実際、この辺りを歩いてもらうと、川が流れて、お城もあって、良い街であることがわかんと思います」。私も取材をしながら、市役所周辺まで足を伸ばして散策してみました。確かに大垣城を一つのランドマークとして、趣のある街であることを実感しました。

「街を歩いてもらい、単にいい街であることを

感じてもらうだけでなく、日常的に楽しめる街であることを感じてもらいたいと思っています。それによってこの街で事業を始めたいという人を呼び込むこと、それがもう一つの大きな目的です」。

当初、イベントといえば集客することで街に賑わいを創り出すもの、そういう固定観念で取材を進めました。お話を伺って、いい意味で自分の思い込みを裏切られた感じがしました。

街歩きを通して、街全体のポテンシャルを感じてもらい、新たな事業者を呼び込むことが目的。これは明らかに通常のイベントとは一線を画すコンセプトです。いい意味で期待が裏切られました。

■ イベント運営の現状と課題

大垣市においても他の地域と同様に後継者不足などにより、商店街の中での空き店舗が増えています。

「このイベントを通して、空き店舗の活用により新規出店を増やす取り組みもしています。まちづくり会社が空き店舗をリノベーションし、初期投資を抑えて出店しやすい環境も整備しています」。

取材を行った場所も空き店舗だったのですが、このイベントを通して新規出店者が決まったとのこと。



▲空き店舗を活用した出店

「このイベントをきっかけに若い人たちの出店が、少しですが増えてきています。事業が軌道に乗った出店者が、コーヒーイベントを企画す

るなど、自分たちの商売に紐つけ、新たなイベントの担い手としてこのイベントに参加するといった好循環が生まれています」。

新規出店者が商店街組合に加入しないケースもあるようですが、これについては強制せず柔軟に受け入れているとのことで、加入メリットが明確になれば自然に増えていくという方針だそうです。

一方で、新規出店者と既存店舗との協力関係や、イベント開催エリアに偏りが出ている点は、継続課題として取り組む必要があるとお話されていました。

■ 今後の展望

「まずは継続することです。一つの空き店舗が埋まったら、次の物件を埋めていく。市も協力的なので、うまく予算を使いながら新規出店のサポートをしていきたいと思います」。

他にはないコンセプトによるイベント運営。情緒溢れる歴史の街、大垣市において、新しいムーブメントが起きつつあります。

雨の大垣公園や大垣城を歩きながら、この街に確かな希望を感じました。

駅前で守り続ける " 誠実な味 " 季節と共に歩む完全予約制の料理店 日吉屋

◆瑞浪駅前商店街振興組合

瑞浪駅前の通りを歩くと、地域の時間を静かに受け止めてきた一軒の料理店があります。岐阜県瑞浪市で長年親しまれている日吉屋さんです。

店主の木股さんにお話を伺いました。



▲店主の木股さん

■ 日吉屋の歩み

日吉屋の料理店としての創業は昭和40年ですが、そもそもの歩みは昭和6年にまで遡ります。

「私の祖父が瑞浪市日吉町のご実家で営んでいた造り酒屋のお酒を売るために、瑞浪駅の開業に合わせて小売店を構えたことがきっかけと

なります。角打ちでつまみを出しながら、座敷で酒を楽しめる場として地域に根づいていきました。その後、昭和40年ごろに私の父が料理屋としての登録を経て、今に至ります」。

料理店としての歴史も60年余りですが、日吉屋そのものの歴史は100年近くになるということで本当にこの地域に根ざした料理店といえます。

酒とつまみを囲む場から、人生の節目を任せられる料理店へ。長い時間をかけて磨かれてきた店の姿には、地域とともに変化してきた歴史がにじみます。

■ 日吉屋のこだわり

「うちのお店は完全予約制になっています。予約に合わせて食材を吟味し、無駄なく仕入れ、最も良い状態で料理を提供するようにしています。料理については季節感を大切にしています。魚や野菜は、その時季ならではのものを意識して選び、四季の移ろいを料理の中で表現していきます」。

お客様から「ここの刺身はおいしい」と声をかけられることも多いそうで、素材の見極め、保存、切り方、出し方まで、基本を積み重ねた仕事



▲季節の旬を活かしたお料理

の確かさが伝わってきます。華やかな演出に頼るのではなく、素材の良さをまっすぐに引き出す。その誠実さが、日吉屋のこだわりといえます。これからの時期は、やはり鮎が主役になるとのこと。日吉屋では和良川や馬瀬川など日本一になった鮎を仕入れてお客様に提供することもあるそうです。

料理だけでなく、使い勝手の良さも魅力の一つです。1階にある完全個室には専用トイレも備えられ、ほかのお客様と顔を合わせずに過ごせるよう配慮されています。2階は最大80名の会食に対応できるお座敷が用意されており、



▲カウンターの個室は誰とも会わずにご利用できます

接待や親族の集まり、小さなお子様を伴う会食など、用途に応じて対応できるよう工夫されています。また、仕出しの注文も多く、店内営業と並行しながら細やかな対応に応じています。

■ 地域とのつながりと日吉屋のこれから

「七夕や花火大会などの地域行事の際は店前の駐車場で生ビールを提供しています」。

お店の営みは店内だけで完結せず、地域の風景やイベントと緩やかにつながっています。

一方で、多くの地方都市が抱える問題が日吉屋にも降りかかっています。後継者問題です。

「後継者がいないので、将来的には事業承継やM&Aなども考えています。でも、まだまだ自分も現役としてやっていけるので、小手先のことに走らず、真っ正直なものをちゃんと出して、お客様に対して誠実に向き合ってお店の価値を高めていきたいと思っています」。事業承継は避けて通れないテーマです。それでも、日吉屋が積み重ねてきた価値は揺らぎません。正直な料理を出し、季節に向き合い、お客様の大切な時間に寄り添うこと。その積み重ねこそが、この店のいちばんの魅力だと思います。

瑞浪駅前で灯りをともしてきた日吉屋は、料理を味わう場所であると同時に、人が集い、語り、地域の記憶を重ねる場所でもあります。静かで確かな一軒が守り続けてきた時間の豊かさは、これからも多くの人の心に残っていく。そんな未来を感じさせてくれるお店でした。

〒509-6121

住所：瑞浪市寺河戸町1141-4

TEL：0572-68-2331

営業時間：ご予約のみ

(お電話でご確認ください)

定休日：不定休

【取材・記事 中小企業診断士 田口尚正】

◆ 令和8年度岐阜県商店街活性化支援事業費補助金

補助金の目的・基準

＜補助金の目的＞

商店街の魅力発掘と集客性向上等による商店街の活性化を支援するため

＜補助事業採択の基準＞

- ①事業の目的が明確であること。
- ②商店街を取り巻く環境や地域住民のニーズを把握していること。
- ③事業に係る目標を具体的に定めていること。
- ④事業の確実な実施が認められること。
- ⑤事業の実施により来街者が増加し、恒常的な売り上げの増加等の効果が見込まれること。
また、事業終了後も効果を維持できる工夫があること。

クラウドファンディング事業

補助対象事業

クラウドファンディングを活用して行う商店街の活性化に資する事業のうち、次のいずれの要件にも該当するプロジェクト

- 1 県が別に定めるクラウドファンディング事業者(※)が運営するサイトにおいて実施するものであること。
- 2 次のいずれかに該当する事業(補助事業団体が、中小企業者の場合は、商店街振興組合等の団体の推薦を受けた者が実施する事業に限る。)
 - ①空き店舗を活用し、まちの復活拠点を創出する中心市街地再生事業
 - ②商店街のにぎわい創出を目的とするイベント事業
 - ③新店舗誘致事業
 - ④新規出店事業(商工会議所等の伴走支援を受けている事業に限る。)
- 3 クラウドファンディングの調達目標額が50万円以上であり、かつ、達成額が20万円以上であること
- 4 成功時実施型(All or Nothing型)又は「実施確約型(All in型)」で

実施し。かつ「購入型」又は「寄付型」で実施すること。

5 資金調達の完了及びリターンの完了が同一年度内に完結すること

※県が別に定めるクラウドファンディング事業者

次のいずれかに該当する者

- ①一般社団法人日本クラウドファンディング協会会員である者
- ②岐阜県内に本社があり、法人設立後2年以上経過かつ補助金申請時における直近1年間において、クラウドファンディングによる資金調達の成立実績が10件以上ある者

補助対象経費

クラウドファンディング事業者に支払う費用のうち、以下に該当するもの

- ①利用手数料、決済手数料、早期振込手数料
- ②プロジェクトページを作成するための費用
- ③プロジェクトの広報媒体の作成費用
- ④プロジェクトの情報発信を目的とした広報媒体への掲載・配信に要する費用

補助額

補助対象経費の1/2以内(1事業当たり300千円以下)

※「クラウドファンディング支援事業」に限り、市町村の補助は不要

お問い合わせ先

岐阜県 商工労働部 商業・金融課 商業振興係

TEL: 058-272-8374

■青年部・女性部第1回勉強会のお知らせ

日時: 令和8年8月3日(月) 13:30～

場所: OKBふれあい会館 4階 405会議室(岐阜市藪田南5-14-53)

テーマ: AI時代の商業経営～AI最前線とビジネス活用の実際～

講師: Office DROPS 代表 石井克成氏

※参加希望の方は、県商連までご連絡ください。TEL: 058-277-1107

岐阜県商店街だよりは、岐阜県からの補助金を受けています。